

JENESYS2015 派遣プログラム (マレーシア/ASEAN ヤングリーダーズサミット) の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、ASEAN ヤングリーダーズサミットに日本を代表する若手社会人・高校生7名が参加しました。ヤングリーダーズサミットはASEANの人口60%を占める35歳以下のポテンシャルを活用し、ASEANの活性化と統一を目指すサミットであり、マレーシアから120名、他ASEAN諸国、日本、中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランド、ロシア、カナダ、米国、ヨーロッパ連合から合わせて300人が参加し11月17日から11月21日の4泊5日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加者・人数

社会人6名

高校生1名

3. 訪問国

マレーシア

4. 日程

11月17日(火) 成田空港より出発、マレーシア着

11月18日(水) オープニングセレモニー

ASEANを代表するキーノートスピーカーからトークセッション
ネットワーキングディナー

11月19日(木) グループセッション

コミュニティプロジェクト

11月20日(金) AYLS企画書提出、閉会式

クアラルンプール空港より出国

11月21日(土) 帰国

3. JENESYS2015 派遣プログラム記録写真(派遣国: マレーシア)



11/18 オープニングセレモニー



11/18 トークセッション



11/18 ネットワーキングディナー



11/19 グループセッション



11/19 コミュニティプロジェクト



11/20 クロージングセレモニー

4. 参加者の感想

◆ 社会人

まずサミットの冒頭で大変感動したのが、マレーシアの青年スポーツ省大臣 YB Khairy Jamaluddin 氏によるスピーチです。6億人の ASEAN 人口のうち 60%は 35 歳以下であること、つまり我々は未来ではなく現在のリーダーである、という話です。彼のスピーチから、ASEAN に対する理解が深まり、諸国を経済的・政治的・社会文化的に統合していくイニシアチブであることを学びました。また、仮に ASEAN が1つの国家だとすると、重油・ゴム・米の産業やムスリム・仏教の人口において世界1~2位を占めるということからも、この諸国の統合・協働を高めることに価値があると理解いたしました。さて、今回私は「教育と雇用」の分野で日本代表として参加いたしました。ピラーごとの分科会では各国を代表するリーダー達と直接的なネットワークを行うことができました。さらには、Youth Manifest 作成のチームに選ばれ、さらには政策提言のプレゼンテーションまで行うことができましたこと、大変光栄に思っております。そして、ASEAN 対話国の日本として、さらにプレゼンスを高める必要があることを実感いたしました。

◆ 社会人

ASEAN 諸国の若きリーダーたちのワークショップを見事にまとめあげる力、メッセージを伝える力など、その能力の高さに大変感銘を受けた。特に、教育を受けられない多くの子供たちがいる ASEAN 諸国での初等教育の大切さを訴え、具体的な活動(e.g., Teach for Malaysia)を通じて教育改善に取り組んでいる姿を間近に拝見。そこには自分たちの力で国を変えていくのだ、という気概が伝わってきた。一方、シンガポールといった一部の国・地域を除いて、高等教育のカリキュラムや若い研究者の育成について課題を抱えていることも議論を通じて伝わってきた。高等教育の質を高める一つの方法として、日本・韓国・中国との交換留学や研究交流を行う枠組みを作成できないかといった意見が多く聞かれた。少子化に伴い、学生確保が今後大きな課題となっている日本の大学において、ASEAN からの留学生を取り込むことは必然になる。その際、ハードルとなるのが言語である。日本の大学は、英語化を含めた受入体制を整備し、留学先として魅力を高める必要があると切に感じた。そのための有力な方法の一つに、MOOCs(Massive Open Online Courses)といったオンラインコンテンツを使った授業の整備や体制作りがあると考えている。日本の大学で行われている質の高い講義を ASEAN 諸国の学生に知ってもらうことで、日本の大学に興味を持ってもらえるきっかけの一つになる。MOOCs には修了率の低さや導入や運営のコストなど、批判的な意見も聞かれるが、体制を整備し、発信力を高め、Openness を強化すること大学の質的向上にも繋がるのでは、と考えている。

◆ 社会人

マレーシアで、ASEAN を担っていく各国の起業家達や学生たちの自分たちが国を担っていくんだ、という勢いをものすごく感じました。突き進むことに何の迷いもないというのは日本の若い世代にはなかなかない空気なので、大変強い刺激を受けました。帰国後も、彼らに負けないよう、小さい壁なんて余裕で超えて行かなきゃいけないと頑張ります。

5. 参加者の帰国後の発信内容（報告会での）例/ 派遣国での発信内容
 (PPT、Facebook、ビデオなどの良い画面を貼りつける等)

 <p>Kihoko Tokue added 2 new photos. November 18 · 🌐</p> <p>Opening ceremony at YOUNG LEADERS SUMMIT started!</p> <p>Share</p> <p>9 people like this.</p>	<p>[現地レポート]リバネスマレーシア代表の徳江とリバネスの秋永がASEAN+ YOUNG LEADERS SUMMIT 2015に派遣されました</p> <p>徳江 紀穂子 · 11月19, 2015 · 🌐 114 🗨️ 0</p> 
<p>Facebook 発信</p>	<p>ホームページ掲載</p>
	 <p>Kihoko Tokue November 20 · 🌐</p> <p>#AYLS2015 #JENESYS2015</p> <p>Wow how time flies. I have had a fruitful 2.5 days here in KL. Wish I could stay longer to witness the handling of our policy recommendations to summit leaders. However it's time to fly back to home now. I don't have winter clothes and I'm scared to land on Japan.</p> <p>ASEAN+ YOUNG LEADERS SUMMIT YOUTH DRIVING THE ASEAN COMMUNITY</p> <p>CLOSING CEREMONY BY YABHG. TUN ABDULLAH BIN HJ. AHMAD BADAWI FORMER PRIME MINISTER OF MALAYSIA</p>
<p>Facebook 発信</p>	<p>Facebook 発信</p>